４つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.588-589
８月の体験学校下見を実施しました

【定例活動報告】

参加活動の継続を願って

緑のダム北相模の森林保全活動には、２０数年前から定例活動月の第3日曜日にほとんど毎回参加している。

その理由は、活動場所が横浜の自宅から1時間ちょっとで行ける距離にあり、大自然の様な富士山を一望できる釣り橋の渓谷あり、相模湖という人工湖あり、山の麓には小原本陣を挟んで古民家が数件並ぶ程良い田舎の里山風景があり、しかも移ろい行く季節をしっかり肌で感じる事ができる所にある。

高尾駅の一つ先の相模湖駅から周囲の里山、里地、湖が望める街並みをゆっ

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

くり歩いて、30～40分程の所に緑のダムの活動基地はある。
もう一つの理由は、そこに老若男女が参加して、特に小・中・高・大学生・OBまで森の活動を楽しんでいる仲間がいることにある。
　みんな分け隔てなく、同じ作業の間伐、枝打ち、ボサ刈り、草刈などの作業を一緒にする事で私などは、追い立てられることなく78歳の今でもマイペースで参加している。
　昼食もたわいもないおしゃべりをしたり、若者の楽しげな会話にそば耳を立て、触れ合いを楽しんでいる。
　適度に体を使い、帰りは相模湖駅近くの「かどや」食堂兼居酒屋で仲間達と最初の一杯のビールに充実した1日を分かち合い、「女ご主人のおいしい手料理」をつまみに地酒の「丹沢誉」で会話が弾み、2時間程おしゃべりして疲れを癒す。そんな活動をできるだけ続ける事を今は強く望んでいる。

丸茂　喬（本会、会員）

【定例活動報告】知足の森

　今回の活動場所は沢でした。沢では小学生の子たちが安全に沢に入れるかの下調べと整備をしました。私は今回この活動に初めて参加しました。初めての活動が沢ということもあり、とても緊張しましたが、自然の綺麗さに圧倒されました。沢の上の方へのぼっていき、小学生の子たちが安全に沢へ入れるよう、木の枝を拾ったり、邪魔な木を切ったりしました。途中、急に深くなるところや滝があったため、少しのぼりづらいところもありましたが、みんなで手を取り合い、協力してなんとかのぼって行くことができました。お昼は、沢の開けた場所でご飯を食べました。普段、沢でご飯を食べるということはあまりないので、とてもいい体験ができたなと思いました。午後は、午前の続きからどんどん上の方へのぼっていき、午前と同様枝を端へどかしたりしました。最後、大きな滝があり、みんなで打たれて楽しく活動を終えることができました。とても疲れましたが、協力して楽しく活動ができたので良かったです。次に行く森の活動も頑張りたいなと思いました。
鈴木　菜織（GTE LAB　中学１女子）

【活動報告】

相模原市 相模湖公民館事業を担当しました

　7/15に相模湖公民館にて、地元の方を対象とした「わくわくサマースクール」を開催しました。地元の小学生だけでなく大人の方にも参加していただき、午前中はボードゲームで間伐の意味を学び、その後実際に森へ入って間伐作業を行いました。

午後は公民館へ戻り、自分たちで切った木を使って大人の方はベンチを、子供たちは1人1つ一輪挿しのお土産製作を行いました。大人チームは木材の配置バランスなどを真剣に考えながら、2台のベンチを製作し、公民館の入口に設置しました。子供たちはドリルを使って好きなように穴を開けたり、縦に割った木を繋げてみたりとそれぞれの個性が出た作品が完成していました。昨年からリピートしていただいた方もいたりと、大変盛り上がったイベントになりました。

永田　桃夏（東京都立大学２年）

桜井尚武の森のコラム

「ミヤマシキミ (*Skimmia japonica*)」

図1　立ち上がるミヤマシキ

20211023　雷電山青梅丘陵

図2　ミヤマシキミ雄花

20150427　坪山奥多摩

図3　ミヤマシキミ成熟果実

20211023　雷電山青梅丘陵

図4　ウチダシミヤマシキミ

20170128　鋸山房総半島

ミカン科の常緑低木で地際から幹をまばらに叢生（そうせい）し樹高は1m内外が普通といわれますが2m以上まで立ち上がっているのも見られます（図-1）。葉は濃い緑色の長楕円形で互生し、革質で厚く全縁、先端は尖ります。ミカン科の特徴の油点が葉の組織内の全面に見られ、葉を裂いたり揉んだりするとミカン科特有の香りを発します。雌雄異株。春に香気ある白い花を開きます（図2）、写真は雄花ですが雌花も4枚の花弁を持ちます。果実は秋から晩秋にかけて赤く成熟します（写真3）。多くのミヤマシキミは丈が低く足元に見られますので下を向きながら登っているとよく目につきます。

関東地方以西の本州と四国、九州の低山～山地帯の庇陰下に生育し、スギやヒノキの造林地でも普通にみられます。台湾ではやや高標高地帯に分布するといいます。同じ分布域に葉の上面の葉脈が打ち出し工作金物のように凹入するものが稀に見られ品種(f. *rugosa*)として区分されています（図4）。また、樺太、南千島、北海道、本州、四国、九州の雪の多い場所に適応したとされる変種のツルシキミ(var. *Intermedia* f. *repens*)が分布しますが、直立しないという以外に大きな違いが認められません。

ミカン科の植物は、キハダ、ミカン、サンショウ、ゴシュユ、など薬用や香辛料に使われるものが多くあります。強い香気からわかるように特異な成分を含んでいるからですが、このミヤマシキミは毒性が強いのでしっかりした注意が必要です。この毒性のためかシカが忌避するという報告がありました。決して食べたり味見したりしないようにしてください。

桜井　尚武（本会、会員）

【活動報告】小金井市ウッド×デジタルファブリケーション講座

今年も小金井市が東京学芸大学に委託し実施している「ウッド×デジタルファブリケーション」講座の森林体験部分を本会で担当しました。本企画は普段の学大の附属生ではない、小金井市に在住、在学する中学生を市が募集し、間伐と間伐材による制作体験、その制作物の寄贈を行うというものです。今年も10名を超える参加者が登録し、６月から７月にかけて本会の定例活動に参加し、間伐と造材、搬出を行いました。昨年に引き続きのリピーターあり、兄弟が昨年参加しており、それを聞いて参加してくれた生徒さんあり、でこちらも地域に根づき始めています。昨年からのリピーターさんは、本会が一部支援している、小金井市移動教室での森林体験をきっかけに興味を持ってくれた、ということで、活動参加者の層がさらに広がりつつあります。今年は、もう一つ並行している小金井市のイベントがあります。そちらで使う材を地元の住宅メーカーさんに製材乾燥してもらう関係で、この活動の間伐材も同時に作業してもらうことになりました。製材と作業は檜原村にある製材所で行ってもらい、実際の製材の様子も見学させてもらいました。この間伐材を使って、８月に学芸大内の研究棟で実際に制作を行います。

宮村　連理（本会、副理事長）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　patagonia